

センターだより

第64号

令和3年12月20日発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター

〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

あおもり教育研究発表会2021の様子

令和3年11月12日(金)に「あおもり教育研究発表会2021」が行われました。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止になり、一昨年までの「あおもり教育フェスタ」から名称が変更になって、初めての開催となりました。

170名の方に御来場いただき、盛大に開催することができました。講師、発表者、御来場の皆様、誠にありがとうございました。



【センター研究発表】

「学校におけるICTの効果的な利活用」という全体テーマのもと、当センターの各研究グループがステージ発表又はポスター発表を行いました。研究の1年目ということもあり、経過報告が中心でしたが、各教科等の特性を踏まえた実践的な内容の研究発表となりました。これから研究成果を随時Webページに掲載していく予定です。今年度のステージ発表は以下の3グループでした。

◇算数・数学グループ ◇社会・地理歴史・公民グループ ◇特別支援教育グループ

【研究員研究発表】

8名の2年目研究員が、3会場に分かれて研究発表を行いました。教科指導や生徒指導、ICT等に関する研究の成果が示され、参加者からは、活発に質問が出されていました。発表や質疑・応答を通じて、効果的な指導法について学ぶ有意義な機会となりました。

- ①中学校の通常の学級における生徒のつまづきや困難さに対する教員の関心の高まりを目指す研究
—ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを通して— (特別支援教育課 研究員 阿部 忍)
- ②小学校国語科において、意見文を書く力を育成する指導法の研究
—説明的な文章の単元で語彙と文章構成の指導を関連させた学習を通して— (義務教育課 研究員 澤田 秀史)
- ③中学校における生徒の教師に対する信頼感を高める関わり方の研究
—校内研修を活用した教師のコーチング力の向上を通して— (教育相談課 研究員 長瀬 友起)
- ④小規模校における協働学習の充実を目指して
—遠隔合同授業を用いた中学校数学科の授業実践を通して— (産業教育課 研究員 田中 輝一)
- ⑤中学校社会科地理的分野において、比較し、関連付けて多面的・多角的に考察し判断する力を育てる指導法の研究
—「つないで考えをつくるチャート」を用いて、地域の在り方を構想する学習活動を通して— (義務教育課 研究員 接待 裕行)
- ⑥小学校中学年における「他者と関わる力」を育てる指導法の研究
—対人関係スキルの習得・活用プログラムの作成と実践を通して— (教育相談課 研究員 古舘 泰史)
- ⑦中学校数学科「データの活用」の領域において、予測や判断を数学的な表現を用いて説明できる生徒を育成する指導法の研究
—予測や判断を確かめる活動とその振り返りを通して— (義務教育課 研究員 工藤 壮史)
- ⑧不登校生徒の心身の健康に関する研究
—こころと体の健康促進プログラムの実施を通して— (教育相談課 研究員 對馬 綾子)



【県内各校ICT活用実践発表】

県内各校より3名の先生方に発表していただきました。

◇小学校の部 青森市立千刈小学校 教諭 工藤 隆詩 氏

◇中学校の部 三沢市立第一中学校 教諭 飯田 香久 氏

◇高等学校の部 青森県立五所川原工業・工科高等学校 教諭 長内 幸治 氏

校種や自治体によってICTの整備体制は異なりましたが、今ある環境の中で様々な工夫を凝らし、子どもたちにICTを使用した学びを推進されていました。活用場面や管理体制、校内体制についてなど、現場で生かせるお話を伺うことができました。



【パネルディスカッション】

「急速なICT導入における学校と子どもたち」をテーマに、東京学芸大学准教授 高橋 純氏と実践発表をいただいた3名の先生方によるパネルディスカッションが行われました。3名の先生方からは、現在の学校や教師・子どもたちについて感じているリアルな思いも語っていただきました。また、高橋准教授からは、全国でもいち早くICT導入に取り組んできた学校の実践例などの紹介もありました。」フロアからの質問に対しても4人のパネリストが答え、熱のこもったディスカッションとなりました。

【講演会】

東京学芸大学准教授 高橋 純 氏を講師にお迎えし、「はじめての一人一台端末の活用～学びの質の向上に」と題して御講義をいただきました。豊富な実践例を基に、ICTによる業務軽減や道具が紙や鉛筆からPCへと変わることによって子どもたちが変わり、教える側も変わっていく様子が分かりました。参加者からは「低学年のパスワードの管理やICTの活用について」や「ノートとPCの併用について」などの質問や、「学びの質とは何か？」を考えさせられました。Society5.0への国家戦略とICTの活用という戦術、ダブルループ学習の重要性など時間があればお聞きしたい」や「資質・能力の育成イメージで、ドリルが単にドットをつくりだしている状態で、それをネットワーク化・構造化するイメージが非常に納得できた」等、様々な感想をいただきました。



センターセミナーⅠの様子（高校教育課）

7月31日（土）に今年度1回目となるセンターセミナーⅠが開催されました。

講師に 学校法人桐蔭学園理事長 桐蔭横浜大学学長・教授の 溝上 伸一 氏をお迎えし、「令和の日本型学校教育～個別最適な学び、協働的な学び、ハイブリッドな学び～」というテーマで御講演いただきました。

感染症対策としてオンラインでの開催でしたが、休日にもかかわらず、多くの方々に御参加いただきました。「アクティブラーニング」「新学習指導要領」「個別最適な学び」「協働的な学び」等をキーワードにした、学校現場での実践にすぐに役立つお話ばかりで、参加された方々も大きな学びを得ることができたようです。

【参加者の感想】

- ・先進校の事例のほか、生徒への指導をする上での肝になる部分をお話いただき助かった。求められている資質・能力は、実社会で生き抜く際の力であることを再認識し、今後の指導に当たりたいと思う。
- ・アクティブラーニングという言葉だけが先行して、具体的にどんな意図でどのように授業を行えばいいかわからなかったが、今日の話聞いて、イメージを持つことができた。
- ・個別最適な学び、主体的・対話的で深い学び、様々なキーワードについてのとらえ方がよく分かり、これからの子どもたちの学びに何が大切なのか自分なりに落とし込むことができた。



適応指導教室の活動紹介（教育相談課）

適応指導教室は、学校に行きたくても行けない児童生徒の不安や悩みを軽減し、人間関係の改善等の適応能力を育み、社会的自立を目的に支援を行っています。

学びの時間

自分の得意科目の更なる強化や苦手箇所やつまずきの克服、定期テストや進学対策など、各々の目標に向かって学習に励んでいます。指導員や担当相談員が支援や補助にあたります。

昼食・休憩後には、15分間のパワーアップタイム（国・数・英）が行われ、基礎基本の定着を目指した学習に取り組めます。



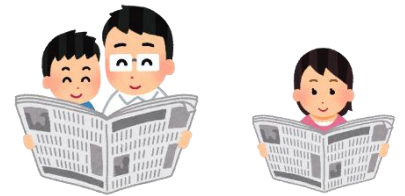
英会話の時間

ALTを招き、ネイティブな発音に触れながら様々な活動を通して、楽しく読み書き、発音のスキルを高める活動を行っています。また、ALTの出身地や様々な国についての文化を学ぶ機会にもなっています。



N I Eの時間

新聞を読み、興味や関心をもった記事を切り抜き、感じたことや学んだことなどを、自分なりにまとめたコメントを添えて掲示していきます。社会の今を知るとともに、郷土への理解を深めながら表現力を養っていきます。



動物ふれあい体験

動物愛護センターで犬のしつけ訓練・散歩など、動物とのふれあいを行っています。動物とのふれあいを通して、心を癒し、温かな交流を図ることで、コミュニケーション能力や人間関係を築く力を身に付ける機会になっています。



ふれあいタイム

通所生にコミュニケーション能力や良好な人間関係を築く力を身に付けさせるために、人間関係づくりプログラム（対人関係プログラム、ソーシャルスキルトレーニング、構成的グループ・エンカウンターなど）を行っています。



「文化祭」

通所生でテーマを決め、今年度はハンドベルや書道パフォーマンスの発表を行ったり、創作活動として、プラバンを使ったキーホルダーづくりやポップアップカード作成に取り組んだりしました。自主性・意欲・人間関係等を育むための内容になっています。



様々な創作活動

通所生の意欲・自主性・創造性等を育むために、様々な創作に取り組んでいます。（イラスト、俳句作り、切り絵、落ち葉アートなど）また、文化祭前には、各部屋の装飾、展示するもの（消しゴムはんこ、うちわ等）を創作しています。



日々の学びと、様々な経験やふれあいで、社会的自立を支えます。